
洋室派 V S 和室派

タナペン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

洋室派VS和室派

【Nコード】

N1021X

【作者名】

タナペン

【あらすじ】

あなたは洋室派？ それとも和室派？

洋室派VS和室派？

「私は、洋室が好きです」

「私は、和室が好きです」

「洋室は、フローリングです」

「和室は、畳です」

「洋室は、アメリカンな気分が味わえます」

「和室は、日本の心を味わえます」

「洋室にいる人は、お洒落な人が多いです」

「和室にいる人は、落ち着いた人が多いです」

「フローリングの床には、毛並みの綺麗なシェパードがいます」

「畳の部屋には、基本的に仏壇があります」

「……仏壇があるからなんだよ？」

「拝めます。祖先を大事にしています」

「洋室には、でっかくていかにも高そうな絵画が飾ってあります」

「和室には、鋭くていかにも人が切れそうな日本刀が飾ってありま

す」

「いかにもじゃなくて、実際バツサリ切れるだろ」

「普段は滅多に使いませんが、くせ者が出た時に使います」

「どこの屋敷だよ」

「立派な掛け軸もあります」

「洋室だって、立派な暖炉があります」

「どこの金持ちだよ」

「洋室がある家庭には、必ず暖炉があります」

「ねえよ」

「ハイジもいます」

「ハイジいるんだ」

「クララが立たないことにイライラするハイジ」

「どこのアルプスだよ」

「ハイジが住むアルプスです」

「和室にだって、忍者がいます」

「あつ、くせ者だ」

「くせ者ではないです。忍者を用心棒として雇っているんです」

「忍者自体を用心しないとダメじゃない？」

「泥棒が入ると手裏剣でやっつけます。やばくなったら、隠れみの術を使います」

「隠れんなよ。洋室の朝はいつも優雅。クラシックを聞きながら、パンとサラダ、スクランブルエッグ、オレンジジュース、食後にコーヒー」

「和室の朝は、洋室の朝みたいに栄養のない物は食べません」

「別に栄養ないことはないだろ」

「元気が出るご飯。体が暖まるみそ汁。歯を丈夫にする漬物。食後に心を落ち着かせてくれるお茶」

「洋室の夕食は、朝よりすごく豪華。松阪牛のステーキに、北海道直送とうもろこしを使ったコーンスープ。すごく高いワイン。食後にコーヒー」

「食後はやっぱりコーヒーなんだ」

「コーヒーと一緒にデザートチョコレートケーキを食べます。しかもゴディバの」

「ゴディバの!？」

「そう、ゴディバの」

「和室の夕食は、洋室の夕食みたいにすごく高カロリーのを食べません」

「まあ、確かに高カロリーだな」

「ご飯とみそ汁と焼き魚」

「朝とあんま変わらないじゃん」

「あつ、あと漬物も」

「だから朝と変わらないじゃん」

洋室派VS和室派？

「食後に焼酎」

「食後に？」

「洋室にはない文化、晩酌です。肴は鯛の刺身と近所のすっごい美味いと評判の豆腐屋で買った冷奴。鰹節と生姜をのつけて、お醤油ちよろり」

「美味そうだな」

「実際すっごい美味いです」

「洋室には、ふかふかのソファーがあります。家族みんなが座つても、ゆつたり」

「和室には、コタツがあります。家族みんなでミカンを食べながら、紅白歌合戦を見ます」

「紅白限定！？」

「ゆく年くる年を見ます」

「年末限定！？」

「コタツといえば冬だからね」

「洋室は、土足で入れます」

「はっ！くせ者！」

「違つよ」

「和室には畳があるので、ごろ寝ができます」

「畳の上ですぐ寝るので、和室に住む人にはデブが多いです」

「すごい偏見。洋室に住む人は、高カロリーな食事が多いので、メタボばかりです」

「それだつて偏見じゃん。洋室はとにかく広い」

「広いつて、何畳あるんだよ？」

「畳でたとえたら意味ないだろ？とにかく広いんだ」

「和室も広い。畳でたとえられないくらい広い」

「そこたとえろよ。洋室には、ゆつたり寝れるベッドがある」

「和室には、ふかふかの布団がある」
「ベッドは、布団みたいに上げ下げしないでいい」
「布団は、ベッドみたいに落ちることがない」
「それ寝相悪いだけだろ？」
「おばあちゃんが添い寝してくれる。寝るまで子守唄を聞かせてくれる」
「ベッドでは、お母さんが添い寝してくれる。眠くなるまで絵本を読んでもくれる」
「おばあちゃんの子守唄は、とても安らぐ」
「お母さんの絵本は面白い」
「朝起きたら、おばあちゃんは2年前に亡くなったでしょ。と言われる」
「なにそれ？ 急に怖い話かよ」
「そういえば、和室にはおばあちゃんの仏壇がある」
「怖いって。やめろよ」
「和室にしていると和む」
「洋室にしていると落ち着く」
「1人でいるのに、誰かに見守られているような気がして安心する」
「それ完全におばあちゃんの霊だって。安心するなよ」
「和室はなくてはならない」
「洋室もなくてはならない」
「どっちも大事だ！」
「えっ？」
「そうだろ？」
「えっ……ああ、まあ」
「だから家には、洋室も和室も必要だ」
「まあ、そうだな」
「だから、忍者もシェパードも日本刀もハイジも暖炉も必要だ！」
「なんか違うような気がする」
「ついでに、おばあちゃんも」

「おばあちゃんは成仏してよ」

「食事も朝はパンとご飯を食べ、オレンジジュースとお茶を飲む」

「食後には……?」

「コーヒー」

「あゝあ」

おわり

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1021x/>

洋室派VS和室派

2011年10月9日15時56分発行